

令和6年度 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備」

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回 令和6年8月9日(金)～8月11日(土) 1泊2日

第2回 令和6年8月16日(金) 日帰り

(2) 参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる県内の高校生(募集定員10名程度)

② 参加者

第1回 4人

第2回 4人

(3) 連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊 須山 賢人 氏

加茂川有害獣利用促進協議会 二枝 茂広 氏

加茂川有害獣利用促進協議会 椎木 真弓実 氏

(4) 企画・運営のポイント

- ①前年度の反省を生かし、移動時間を最小限にして疲労の軽減と体験の充実をねらった。
- ②地域おこし協力隊の講師には、地域おこしにおける努力と関連付けて広報におけるアウトプットの工夫について講義をしていただいた。
- ③加茂川有害獣利用促進協議会のフィールドワークでは、有害獣という地域の課題をプラスにするというコンセプトのもと、ジビエ肉バーベキュー、講話、クラブとつながりを大切にしたプログラムにした。
- ④ 宿泊を伴う際の発表は、ポスターセッションに限定したが、日帰りの発表は参加者の実態に合わせてパソコンやタブレット端末も使える環境を整えた。
- ⑤ 社会教育実習中の大学生とともに参加することで、学びに向かう姿勢や発表のスキルなど、様々な面で手本になることを期待した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和6年8月9日（金）～10日（土）1泊2日

②令和6年8月16日（金）日帰り 会場：ピュアリティまきび（岡山市）

8月9日（金）		8月10日（土）		8月16日（金）	
9:15	受付	6:30	起床・洗面	9:30	受付
9:30	開講式	7:30	朝食	9:45	諸連絡
9:45	アイスブレイク	8:30	移動	10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
10:15	ガイダンス	9:00	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	12:00	昼食（参加者持参）
11:00	講話 「地域づくりの実践」	10:00	移動	13:00	発表②
12:00	移動	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」	14:00	実践活動のための ガイダンス
12:30	昼食（ジビエ肉バーベキュー）	12:00	昼食（レストラン）	15:00	閉講式
13:30	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	13:30	発表①	15:15	解散
15:30	移動	14:30	諸連絡		
16:00	講義・演習①「地域理解」	14:45	解散		
18:00	夕食				
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」				
20:00	入浴				
21:00	就寝準備				
22:00	就寝				

(2) 活動の状況

①令和6年8月9日（金）～8月10日（土）



【アイスブレイク】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【フィールドワーク①】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】



【フィールドワーク②】



【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和6年8月16日（金）



【講義・演習④「行動計画の基礎」】



【発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 発表資料を作成するうえで、とても参考になる講義だった。
- ② 自分が知らない有害獣について知ることができ、興味深くて面白かった。また、そういった有害獣を有効活用しようと、捨てる部分を少なくなるような工夫をし、見方を変えマイナス面をプラスにとらえる視点が素晴らしかった。
- ③ 様々な肉を利用したバーベキューを体験し、駆除したらそのまま処分されることが多かったのが、食に利用されているというSDGsに沿っているところがとても良い取組だと感じた。
- ④ 吉備中央町を学ぶことをきっかけに自分の住む町について改めて知ることができ、良いところや課題などを様々な視点で考えることができた。

(3) 成果

- ① 地域おこし協力隊による講義では、講師が作成したチラシを使って地域の魅力の伝え方を学んだ。また、SNSやX（旧Twitter）などの効果や懸念事項を考え、情報の受け手の立場にもなることで、プレゼンテーションスキルの向上につながった。
- ② 加茂川有害獣利用促進協議会の講師によるフィールドワークでは、課題を解決して有効に活用するプログラムを体験した。地域の課題として考えられていた有害獣を「山のめぐみ」としてとらえ、イノシシ、シカ、アナグマやヌートリアなどのジビエ肉をバーベキューで食べたり、2日目のクラフトでイノシシ革の小銭入れを作ったりした。非常に充実した体験をすることができ、課題も見方を変えるとプラスにすることができる実感することができていた。
- ③ 参加者の高校生は社会教育実習中の大学生から様々なことを学ぶことができた。教職志望の大学生の話し方や目線、身振り手振りといった相手を意識したプレゼンテーションのスキルは参加者にとって大変参考になった。
- ④ 参加者が学校教育において一人一台のパソコンを活用してきた世代であることもあり、最終日の発表が全員パソコンやタブレットPCでの発表であった。図やグラフを用いて根拠を示し、説得力のある質の高い発表であった。学校でどのような教育を受けてきたかという情報と関連付けて事業を考えることが有効であると感じた。

(4) 今後の課題

毎年のことではあるが、参加者の確保には今年も苦勞した。チラシを配るだけでは配布の開始時期を早めたり配布先を広げたりしても効果は薄いと感じた。事業の魅力や参加することの良さを伝えて参加者を増やしていきたい。

担当：企画指導専門職 八木 雄治